

## (4) 文化・芸術振興にかかる主な施策・事業一覧

### (1)「したしむ」

#### ① 公共施設の利便性の向上

##### ★公共施設の適切な運営と維持管理

###### ◇指定管理施設におけるモニタリングの適正な実施

◆指定管理者制度による施設に対しモニタリングを実施し、運営や維持管理への適切な指導や助言を行う。

###### ◇計画的な維持補修

◆適切かつ計画的な維持補修を実施する。

##### ★市民が利用しやすく立ち寄りやすい施設づくり

###### ◇公共施設案内・予約システムの適切な運用

◆市民ニーズに即した適切なメンテナンスを実施する。また、委託業者との定期的な意見交換を行う。

###### ◇図書館ネットワークの適切な運用とPR

◆市民図書館と地区公民館等との間で図書やり取りを行うネットワークサービスや、校区公民館(34館)で予約図書の受取り・返却ができる配送サービスを継続する。またホームページやポスター掲示などにより、当該サービスの周知を図る。

###### ◇施設のイベント等の情報収集と発信の仕組みづくり

◆実施に向けた手法の検討を行う。

#### ② 文化・芸術関連イベント等の充実

##### ★文化・芸術関連イベント等の充実

###### ◇おおいた夢色音楽プロジェクトの推進

音楽を活かした市民の手によるまちづくり・地域活動の活性化をめざし平成20年度より始まった。道行く人が心むよな、年間を通して音楽が溢れる「音楽のまち大分」を目標とする。

###### ◆おおいた夢色音楽祭

市民有志による実行委員会が開催し、市が補助金を交付する「音楽のまち大分」を実現する鑑賞・参加・育成型のイベント。中心市街地の商店街や公園に設けたストリートステージで、プロアマ問わずさまざまなジャンルの出演者がストリートライブを繰り広げる。

###### ◆ふるさとコンサート

本市にゆかりのある若手演奏家によるクラシックコンサート。市民に馴染みのあるアーティストの公演を提供することで、クラシック音楽に親しんでもらう契機とするとともに、演奏家には発表の機会を提供する。

###### ◆どこでもコンサート

コンサートホールを飛び出して、公民館など市民に身近な場所や雰囲気の良い建物などで気軽に音楽を楽しんでいただくことを目的としたミニコンサートを年間8～9回程度開催している。

###### ◆いかした大人たちのバンドフェス

市内で活動する平均年齢40歳以上のミュージシャンを対象とした発表の機会を、ショッピングモールなどの賑わいのある場所で提供している。

###### ◇大分七夕まつりなど大規模な祭り・イベントの開催

◆実行委員会組織と協働で事務局機能の分担や開催費補助など祭り・イベントの開催を支援している。

###### ◇大分市民音楽祭の開催

◆潤いと安らぎのある市民生活の実現を目的として、日頃から音楽活動に取り組んでいる団体に発表と鑑賞の機会を提供している。ジャンルに制限は無く、出演者と観客が一緒となって音楽祭を楽しめるよう運営面での工夫をしており、企画・運営全てが市民の手作りの音楽祭。

###### ◇大分市芸能まわり舞台の開催

◆舞踊、民謡、邦楽など様々な伝統文化を継承し、多様で豊かな文化を創造する市民の育成を目指し、芸能活動に取り組む市民に発表と鑑賞の機会を提供する。

◇陶芸祭の開催

◆河原内陶芸楽習館を舞台に、陶芸愛好家の作品を募集展示し、河原内の恵まれた自然の中で陶芸と河原内の魅力にふれるイベント。

◇アートを活かしたまちづくり「おおいたトイレナーレ」事業の推進

◆平成27年に開催予定の中心市街地エリアのトイレを舞台にしたアートフェスティバル。公園のトイレ、まちなかの店舗等のトイレを利用して、アート作品を制作し、中心市街地のトイレを目的地化することで来街者の回遊性を高め、賑わいの創出につなげる。

◇地区公民館等の教室・講座、祭り・イベント等の開催

◆市内に13館ある地区公民館やホルトホール大分、コンパルホール、平和市民公園能楽堂などにおいて、地域の特性を活かした様々な祭り・イベントを開催している。また、生涯学習意欲に応える教室・講座も数多く開催されている。

◇校区公民館が取り組むイベント等への事業費補助

◆校区公民館が主催または共催する祭りやスポーツ大会等、住民の交流事業への補助を行う。

★民間ノウハウを活用した文化・芸術の鑑賞機会の提供

◇指定管理者の自主事業の積極的な展開促進

◆指定管理者との基本協定や年度協定を通じ、市民ニーズに即した事業や施設の個性を発揮できる事業の展開に向けた助言・指導を行う。また、実施される事業の情報発信などに積極的に取り組み、活発化を支援する。

★大分市美術館の展覧会等の充実

◇質の高い企画展、常設展の開催

◆企画展は年間7～8回、常設展は年間4回の展示替えを実施。「たのしんで・みて・まなぶ美術館」をキャッチフレーズに、誰もが気軽に美術に親しめる美術館運営を行っている。

◇大分市美術館出前教室の実施

◆所蔵品の特性をいかした3つのコース(①福田平八郎・高山辰雄コース②権藤種男・佐藤敬コース③水墨画コース)を設定し、出前教室を行っている。

★生涯スポーツ・競技スポーツの充実

◇大分市スポーツフェスタの開催

◆スポーツに親しみながら、心身の健康づくりと体力の増進に努めるきっかけづくりとするとともに世代を超えた交流を推進することを目的に、陸上競技、卓球、グラウンドゴルフなど約20種目の競技会を毎年開催している。

◇総合型地域スポーツクラブの創設促進

◆市民の健康保持増進、地域の活性化、地域の教育力の向上を目指し、気軽にスポーツ活動に取り組める地域主導による生涯スポーツ社会の構築を目的に、地域住民の自主的なクラブの創設を支援している。

◇スポーツ少年団や競技団体等の活動の活発化の支援

◆子供から大人まで広く市民にスポーツを普及・振興させ、市民の健康増進や体力向上を図り、明るく豊かな市民生活の形成に資するとともに、県民体育大会等の各種大会における競技力向上を支援する。

★ホームタウン推進事業の推進

本市を本拠地とする国内トップクラスのリーグに属する「大分トリニータ」「大分三好ヴァイセアドラー」「バサジィ大分」「大分ヒートデビルズ」を、多くの市民が一体となって応援するとともに、チーム(クラブ)は市民と協働して、郷土を愛する心や市民の一体感の醸成などをめざす取り組みで、本市が進める「スポーツによるまちづくり」の根幹を成す事業。

◇大分トリニータ・大分三好ヴァイセアドラー・バサジィ大分・大分ヒートデビルズのホームゲームへの市民招待の実施

◆市が4チームのホームゲームの観戦チケットを購入し、希望する市民を招待することで、応援気運を盛り上げ、スポーツによるまちづくりを進めようとするもの。

◇おおいたスポーツ広場の開催

◆多くの市民に4チーム(クラブ)の選手を身近に感じてもらうため、4チーム(クラブ)の選手が一同に会し、市民と一緒に遊びや競技体験などをする交流イベント。

③ 施設や団体との連携強化と情報発信

★県や民間施設、活動団体との連携強化

◇大分市美術館と県立美術館との連携

◆平成27年の県立美術館開館を前に、相互の所蔵品を活用した企画展の開催や郷土ゆかりの作家についての共同の調査・研究等を行う。

◇大分県芸術文化振興会議等との意見交換の場の設置

◆実施に向けた手法の検討を行う。

★情報収集と発信

◇施設や活動団体の情報収集と発信の仕組みづくり

◆実施に向けた手法の検討を行う。

★回遊性の創出

◇公共施設間の催し物情報の相互案内の仕組みづくり

◆実施に向けた手法の検討を行う。

◇商店街等と協働した文化・芸術関連イベントの開催

◆おおいた夢色音楽祭や大分市美術館特別展をはじめ、様々なイベント等において取組みを進める。

◇公園等の街角空間の利用促進

◆屋外イベント開催のノウハウを蓄積し、必要に応じ助言、支援を行うなど開催を促進します。

(2)「はぐくむ」

① 寛容で好奇心にあふれる気運の醸成

★文化・芸術やその活動の楽しさを伝える取組みの充実

◇施設や活動団体の情報収集と発信の仕組みづくり

◆実施に向けた手法の検討を行う。

◇児童生徒への文化・芸術関連の催しの情報提供の仕組みづくり

◆これまで、小中学校を通じ、催し物のチラシの配布など行っており、こうした取組みの充実を図る。

★学校教育における文化・芸術活動の充実

◇大分市美術館や大分市歴史資料館などを活用した体験学習の充実

◆大分市美術館は年間延べ181校、大分市歴史資料館は同じく112校、大友氏遺跡体験学習館は同じく36校が利用しており、拡充をめざす。

◇福田平八郎賞図画展・朝倉文夫賞彫塑展の実施

◆福田平八郎賞図画展及び朝倉文夫賞彫塑展は、市内小・中学校、特別支援学校の児童生徒を対象に取り組んでおり、平成25年度では合わせて40,785点の応募があった。

●福田平八郎：大分市出身の日本画家。京都市立絵画専門学校卒。1936(昭和11)年、京都市立絵画専門学校教授。1961(昭和36)年、文化勲章受賞しその翌年から本図画展が始まる。昭和36年に大分市の名誉市民となっている。

●朝倉文夫：大分県出身の彫刻家。東京美術学校卒。1921(大正10)年、東京美術学校教授。1948(昭和23)年、文化勲章受賞し、1967(昭和44)年から本彫塑展が始まる。

◇高山辰雄賞ジュニア美術展の実施

◆高山辰雄賞ジュニア美術展は、大分合同新聞社と大分県・大分市の共催で、県内幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒を対象としており、平成24年度では約10万点の応募があった。

●高山辰雄：大分市出身の日本画家。東京美術学校卒。1972(昭和47)年、日本芸術院会員。1982(昭和57)年、文化勲章受賞しその翌年から本美術展が始まる。昭和58年に大分市名誉市民となっている。

◇大友宗麟公に関する副読本による歴史教育の充実

◆市立小学校6年生を対象に、郷土の英雄である戦国大名大友宗麟公の功績と府内のまちの歴史について学習するための副読本を配布し、社会科の授業などで活用している。

◇伝統芸能ふれあい教室の開催

◆芸能まわり舞台加盟10団体により、豊かな感性を有する子どもを育成する目的で、市内の小・中学校に伝統芸能の鑑賞と踊り・唄・和楽器演奏等の体験活動の機会を提供している。2000(平成14)年度から始まった。

◇生き生き学習サポート事業の推進

◆学校と地域が一体となった多様な学習活動を支援し、子どもの学習意欲の喚起や自ら学び自ら考える力などの生きる力をはぐくむことを目的としている。地域に暮らす専門的な知識、技能、技術や豊富な経験を有する者を、学校教育支援員として登録する「学校教育支援バンク」を設置し、市内各小中学校が活用している。

★地域における文化・芸術活動の充実支援

◇大分市生涯学習指導者登録制度の充実

◆豊かな経験や知識技能を有する市民を「大分市生涯学習指導者」として登録し、市民の多様な学習活動を支援するとともに、生涯学習の更なる推進を図ることを目的としている。

◇地域における文化・芸術関連イベント等の充実

◆地区公民館等の活動の場の提供、各種補助金等による活動費の助成などを進める。また、活動発表や会員募集などの情報収集と発信により支援するための手法を検討する。

## ② 文化・芸術活動の顕彰

### ★文化・芸術の顕彰制度等の運用

#### ◇市長表彰等の運用と表彰された人や事業の情報発信

◆市長表彰に値する個人・団体やその活動の情報収集に努めるとともに、受賞者の功績をあらゆる機会を通じて発信する。

#### ◇名義後援の運用と後援事業の情報発信

◆大分市や大分市教育委員会の名義後援を適正な審査のもと積極的に運用する。

### ★文化・芸術に関する新たな顕彰制度創設の検討

#### ◇文化・芸術に関する新たな顕彰制度創設の検討

◆文化・芸術に関連する奨励賞（新人または新規活動賞）、文化・芸術功労賞（永年活動者または永年活動）等の創設を検討する。

(3)「ささえる」

① 活動団体等の支援

★本市関連アーティストの活動支援

◇アーティストとのネットワークの構築

◆国内外で活躍する本市にゆかりのあるアーティストと、あらゆる機会を通じネットワークを構築をめざす。

◇アーティストへの会場情報の提供

◆里帰り公演や凱旋公演などの開催を支援するため、本市で利用可能な公共施設等の会場情報の提供に努める。

◇アーティストの公演開催等の情報収集と発信の仕組みづくり

◆里帰り公演や凱旋公演などの開催を支援するため、公演情報等の収集と発信のための手法を検討する。

◇ふるさとコンサートの開催

◆本市にゆかりのある若手演奏家によるクラシックコンサート。市民に馴染みのあるアーティストの公演を提供することで、クラシック音楽に親しんでもらう契機とするとともに、演奏家には発表の機会を提供する。

★市民主体の団体の活動支援

◇団体の活動状況の情報収集と発信の仕組みづくり

◆実施に向けた手法の検討を行う。

◇アマチュアステージ補助事業の推進

◆市内で文化・芸術活動を行っている営利を目的としない個人または団体が、市内公立文化施設での発表を行う際、施設使用料の一部を助成する。また、市民ニーズに即し、基準等の柔軟な見直しを行う。

◇いかした大人たちのバンドフェスの開催

◆市内で活動する平均年齢40歳以上のミュージシャンを対象とした発表の機会を、ショッピングモールなどの賑わいのある場所で提供している。

◇あなたが選ぶ1%応援事業の推進

◆市民グループ取り組む活動に対して、市民の投票によって決定された補助額を交付する。文化・芸術活動も対象となる。

◇地域まちづくり活性化事業の推進

◆地域住民による地域活動にかかる経費の一部を助成する。文化・芸術関連活動も対象となる。

◇校区公民館が取り組むイベント等への事業費補助

◆校区公民館が主催または共催する祭りやスポーツ大会等、住民の交流事業への補助を行う。

★企業等による文化・芸術活動への支援

◇企業の文化・芸術活動や支援状況の情報収集と発信の仕組みづくり

◆実施に向けた手法の検討を行う。

◇企業の祭り・イベント等への参加促進

◆市が主催または関係する祭り、イベント等について、状況に応じ企業等を通じて参加を働きかける。

◇文化・芸術を活かした商品開発等についての支援のあり方の検討

◆実施に向けた手法の検討を行う。

★国や県、他都市との連携強化と情報収集、情報交換

◇関連会議等への参画や意見交換の場の設置

◆実施に向けた手法の検討を行う。

## ② 障がい者や高齢者の活動支援

### ★障がい者への支援

◇障害福祉サービス事業所や大学等との連携による障がい者の文化・芸術活動への支援の仕組みづくりの検討

◆実施に向けた手法の検討を行う。

◇作品展等の情報収集と発信の仕組みづくり

◆実施に向けた手法の検討を行う。

◇国際車いすマラソン大会出場者への支援

◆大会出場者への支援を行う。

### ★高齢者への支援

◇高齢者の作品展への参加促進

◆作品展についての情報収集と発信などによる支援のあり方について検討を行う。

◇豊の国ねんりんピックへの参加促進

◆市報、市ホームページ等を通じ募集情報を発信する。

◇高齢者の作品展の開催に関する情報収集と発信の仕組みづくり

◆実施に向けた手法の検討を行う。

## ③ 市民協働による支援

### ★市民による支援の広がり促進

◇文化・芸術の持つパワーや暮らしの中の役割を啓発

◆効果的な啓発方法について検討を行う。

◇メンバー募集情報の収集と発信の仕組みづくり

◆実施に向けた手法の検討を行う。

### ★ボランティアの参加促進

◇文化・芸術関連施設におけるボランティアの育成と活用

◆公共施設の状況に応じ、その運営等に携わるボランティアを育成し、活用します。

〈大分市美術館の取組み〉

育成：ボランティア養成講座を毎年6回開催している。

活動：平成25年度の登録者84名で、資料・トーク・普及運営・ワークの4分野で活動している。

〈大分市民図書館の取組み〉

育成：毎年大分市民図書館ボランティアを募集。

活動：平成25年度は157名の市民が登録し、申込み時に希望したボランティア活動を行っている。書架の整理・整頓、資料の簡易修理、地域資料の整理、読み聞かせ、図書館行事への協力の5分野で活動している。

◇本市や地域を代表する祭り・イベントにおけるボランティアの参加促進

◆大規模な祭り・イベントの状況に応じ、当日の運営に携わるボランティアの参加を促進します。

〈大分七夕まつりの取組み〉

公募で募集し、事前説明会の後に活動。平成25年度は2日間で延べ230名が参加。

〈おおいた夢色音楽祭の取組み〉

公募で募集し「ボランティアミーティング」の後に活動。平成25年度開催時は2日間で延べ139名が参加。

(4)「つなぐ」

① 時間をつなぐ

★歴史遺産などの保護・保全

◇埋蔵文化財の適切な調査

◆周知の埋蔵文化財包蔵地の照会や民間開発などに伴う届出等に関する事務を適正に行い、史跡整備に係る確認調査をはじめ民間開発などに伴う事前調査、工事立会いを年間を通じ実施している。

◇文化財等の計画的な整備と保全

◆市内にある指定文化財を、優先度をつけ、計画的に整備を行っていく。

◇市内外への情報発信

◆市内各支所で、大分の歴史や地域特有の文化財を紹介する資料の展示を市民協働で実施した。また、SNSを利用した文化財情報の発信を市内外へ行う。

◇現地案内板等の整備

◆市で設置している案内板等について現況を確認するとともに、必要に応じ随時整備を行っている。

◇現地説明会等の開催充実

◆開催実績 2～3回/年間 ◆開催場所 市内各地の発掘調査現場

◇大友氏関連遺跡の整備

◆大友氏遺跡保存管理計画・整備基本構想に基づく整備を推進している。

◇おおいたのキリシタン・南蛮文化遺産活用・発信プロジェクトの推進

◆「大友宗麟」と「南蛮文化発祥都市おおいた」を本市の顔として全国に情報発信する。

◇大分市歴史資料館、海部古墳資料館等の展示の充実

◆歴史資料館の展覧会(展示)では、常設展示のほか、特別展示を年1回、企画展示を年3回開催している。  
◆海部古墳資料館では、常設展示と企画展示を開催している。  
◆その他の施設では、毛利空桑記念館が常設展示と企画展示、帆足本家酒造蔵では酒造用具の展示を行っている。

◇関係機関との連携強化

◆実施に向けた手法の検討を行う。

◇屋外彫刻の再配置の推進

◆道路や公園等に設置されている南蛮文化を紹介する彫刻や著名作家による彫刻を再配置し、文化の薫りのするまちづくりを進める。

★景観等の保存と継承、情報発信

◇日本風景街道「別府湾岸・国東半島海への道」の情報発信

◆「別府湾岸・国東半島海への道」のガイドマップを、関連する施設に置くことにより、来場者の方々へルートの知名度向上を図っている。今後も、日本風景街道「別府湾岸・国東半島海への道」推進協議会において、ルート48景を選定・公表するなどにより、地域の自然・歴史・文化を情報発信する。

◇大分きれい100選事業の推進

◆本市の素晴らしい自然風景や景観に配慮した建物、まちづくり活動を市民公募により掘り起こし、顕彰することで、景観に対する市民意識の高揚を図っている。

★食文化の継承

◇郷土料理講習会の開催

◆郷土料理を学び日常生活の中で食することにより、郷土への愛着をもってもらうため講習会を行う。

◇関あじ関さばまつりの開催

◆全国ブランドとなっている「関あじ関さば」を地元ならではの本物の味として安心してご賞味いただく機会を提供することで、交流人口の拡大や漁業後継者づくり、ひいては地域産業の活性化と振興を図る。

◇大分ふぐフェスタの開催

◆全国的にも知名度の高い「別府大分毎日マラソン」の開催時期に合わせ、この季節に旬である「大分ふぐ」に代表される大分の食を効果的に発信する。

② 人と人をつなぐ、都市と都市をつなぐ

★人と人との絆づくり

◇ご近所の底力再生事業の推進

◆自治会内のふれあい事業等に対し、助成を行う。

◇地区公民館等の公共施設における文化・芸術関連の教室・講座、祭り・イベント等の開催

◆地区公民館等における教室・講座、祭り・イベント情報をより効果的に発信するための手法の検討を行う。

◇市民主体の文化・芸術関連イベントの開催支援

◆市民による自主的な文化活動を促進するため、営利を目的としない個人または団体が本市内の公立文化施設において公演を行う場合、施設使用料等について補助を行う。

◇校区公民館が取り組むイベント等への事業費補助

◆公民館が主催または共催するまつりやスポーツ大会等、住民の交流事業への補助を行う。

◇文化・芸術活動の需要と供給をつなぐ仕組みづくりの検討

◆実施に向けた手法の検討を行う。

◇企業の文化・芸術活動や支援状況の情報収集と発信の仕組みづくり

◆実施に向けた手法の検討を行う。

★都市間交流の充実

◇都市間の文化・芸術交流の推進

◆都市間における情報交換の場の確保や活動団体からの情報収集のに努め、状況に応じ文化交流協定等の締結を検討する。

◇観光文化姉妹都市の帯広市との交流推進

◆帯広市 昭和41年に空港姉妹都市締結、平成4年に現在の観光文化姉妹都市に名称を変更。  
親善訪問団の相互派遣や物産等の交流を行っている。近年は、隔年で子供親善訪問団の相互派遣を実施している。姉妹都市締結45周年となった平成23年には、姉妹都市締結45周年事業として子ども親善訪問団に合わせ両市長、議長等が訪問し、市職員を対象に市長による講演会を開催した。

◇おおいたのキリシタン・南蛮文化遺産活用・発信プロジェクトなど近隣市町村との交流促進

◆地域の文化遺産を活用した地域振興・観光振興をめざし、大分市・国東市・日出町・臼杵市・津久見市・竹田市で「キリシタン・南蛮文化交流協定」を締結している。  
平成25年度は、6市町の連携をPRするポスター・チラシを作成し、県内外に広く知らせるとともに、各市町で行われる歴史関連イベントに職員が出向き、地域の文化財や観光PRなどを行っている。

★国際交流の充実

◇姉妹都市・友好都市のアベイロ市、武漢市、オースチン市との交流の推進

- ◆アベイロ市 1978年に姉妹都市提携。  
相互に親善訪問団を派遣し、文化芸術交流、情報交換などを行っている。姉妹都市提携30周年となった2008年には、相互に市民参加型の交流事業が開催された。
- ◆武漢市 1979年に友好都市締結  
友好訪問団を相互に隔年で派遣し、文化芸術・産業経済・教育スポーツなど幅広い分野での交流を展開している。
- ◆オースチン市 1990年に姉妹都市提携  
相互に親善訪問団を派遣し、文化・教育・スポーツ分野などでの交流を行っている。

◇地球市民・夢アクティブ21助成事業による文化・芸術交流の促進

- ◆国際化・大交流時代の活力ある都市づくりを推進するため、市民・団体の自主的な企画による国際交流イベント等の実施に対し、経費の一部を助成している。

◇リトル・オースチン村の開催

- ◆小学生高学年児童を対象に、外国語指導助手(ALT)の協力で、英会話や料理、遊びなど、オースチン市の生活を模擬体験する交流会を実施している。

◇おおいた国際協力啓発月間行事の実施

- ◆政府の定める「国際協力の日」(10月6日)にちなんで、10月を国際協力啓発月間と定め、JICA九州や国際協力・交流団体と連携して啓発イベントを開催し、市民の国際協力・交流への関心を高め意識の醸成を図っている。

◇関係機関との連携強化

- ◆市民協働による国際協力・交流を進めるため、国際協力・交流関係団体や海外出身者等で構成される団体とのネットワークづくりや協働の担い手となる人材や団体の育成に取り組むとともに、平和や人権といった人類共通の課題や地球環境問題への対応など、国際協調の必要性が高まりを踏まえ「アジア太平洋都市サミット」等の国際都市間連携を進める。